

開催報告 第11回 トキと人の共生を目指した

水辺づくり座談会



開催日時：2012年3月1日(木)19:00～21:20

場 所：トキ交流会館 大ホール

参加者：一般23名、関係機関5名、事務局8名

座談会進行役：関島恒夫(新潟大学大学院・准教授)

天王川中流部のトキの餌場づくりに向けた整備案について話し合いました

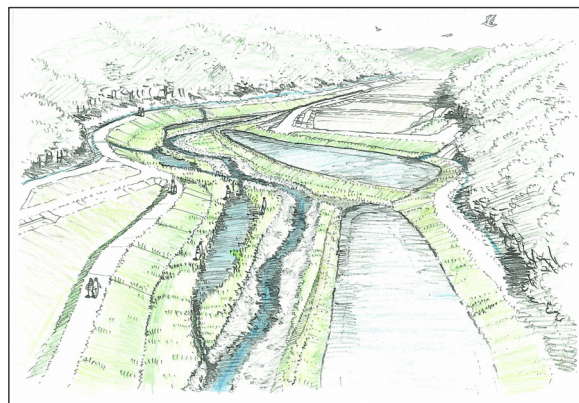
今回の座談会は、以下の事項について説明し、天王川中流部の整備案を中心に話し合いました。

- ①これまでの振り返り
- ②天王川河口部計画について
- ③天王川中流部の整備案

話し合いでは、参加者の皆さんからたくさんのご意見をいただきました。

中流部整備については、「整備による治水への影響が心配」、「工事時期はトキの繁殖時期を避けた方がよい」といった整備による影響に係るご意見のほか、「子どもが水辺に親しめる場になるとよい」、「維持管理には若い世代にも参加してもらえるとよい」等の整備後の利活用・維持管理についてのご意見もいただきました(裏面参照)。

今回の話し合いでは、以下の事項を決定しました。



天王川中流部の整備案 イメージパース



座談会での話し合いの様子

第11回座談会で決めたこと

- 天王川中流部については、今回提示した基本計画をもとに、今後詳細設計及び試験施工を進める。
- 天王川中流部の維持管理、利活用、治水効果などに関する検討については、座談会を通じて今後も議論や検討を継続する。

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局 地域整備部 担当 計画調整課 高橋、坂井
TEL:0259-74-4040 FAX:0259-74-2048 Email:sakai.toru2@pref.niigata.lg.jp

河口部計画について

これまでの座談会では、河口部について環境面、治水面に配慮して設計を進めることとなっていました。これに対し、今回の座談会では河口部の調査・検討状況及び中流部の土砂流出対策状況から「中流部の試験施工を先行実施し、河口への土砂の流出状況を見ながら、河口整備の必要性の有無を含め検討する」という提案をしました。

いただいた主なご意見

- ・洪水時には山から大量の土砂が流出するので、加茂湖への流出を防ぐために中流部から整備するのはよいと思う。(地域住民)



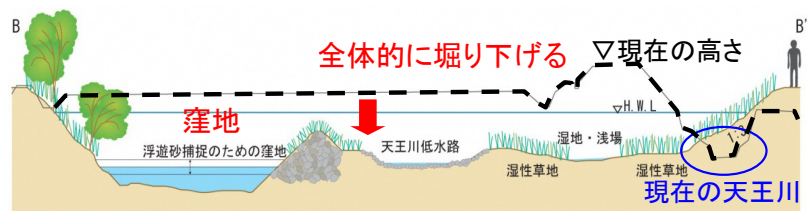
中流部整備について

第10回座談会では、中流部整備について、土砂流出、治水対策を考慮して設計し、整備内容を決定する前に座談会を開催することとなっていました。今回は、検討結果とそれを踏まえた整備案を提示しました。

いただいた主なご意見

■整備内容について

- ・整備によって治水へ将来的に悪影響を及ぼすことはないか。整備箇所から土砂が流れ出たり、窪地の土手が壊れたりして下流に影響がないか、心配である。(地域住民)
→土砂の流下については、川幅が広がり流速が遅くなるため、ある程度抑えられると考えているが、部分的な施工を通して確認しながら進めたい。土手についても、流速が遅くなり大きな力がかからないと考えているが、詳細設計のなかで検討したい。(新潟県 佐渡地域振興局)
- ・湧水があるため、河岸が崩れないように留意した方がよい。(地域住民)
- ・魚の産卵場づくりにも配慮した整備になるとよい。(地域住民)
→いただいたご意見を参考に詳細設計のなかで検討したい。(新潟県 佐渡地域振興局)



天王川中流部整備案 断面イメージ図

■工事時の配慮について

- ・工事時期は、餌が少なくなる冬季とトキの繁殖期、放鳥直後を避けてほしい。(地域住民)
- ・工事をしたら、中流部周辺を利用するトキが来なくなってしまうのではないかと。(地域住民)
- ・工事の時期は、トキがあまり利用しない時期(夏場～晩秋)に行うとよい。併せて、車の動線や工事音等にも配慮することが重要である。(環境省)
→関係機関と相談しトキに配慮した整備にしたい。(新潟県 佐渡地域振興局)

■整備後の利活用・維持管理について

- ・子どもが遊べるような、トキと人が共生する場になるとよい。維持管理は、小学校のPTAなど若い世代にも参加してもらえるとよい。(地域住民)
- ・川に親しむことができる場にしてもらいたい。(市民団体)



■その他

- ・自然再生は、中流部だけでなく、天王川全体で取り組んでいくとよい。(地域住民)

今後の座談会について

今後の座談会では、中流部の詳細設計状況を報告するとともに、整備後の維持管理や利活用、治水等について皆様とともに議論をしていきます。